※令和４年度以降入学生用

学校番号	３２６

令和８年度　理科

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	ｉ版　生物基礎　（啓林館）						
副教材等	生物基礎の基本マスター（啓林館）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

生物とは何でしょうか。身近な生物について考え、生物の特徴、自分自身の体の調節の仕組みについて知りましょう。また、環境の中での生物の役割について考えましょう。生物を学ぶことは自分自身を知ることです。学んだ知識をもとに、科学的に探究する力を身に付けてください。

２　学習の到達目標

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（１）日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。

（２）観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

（３）生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・生物や生命現象について、学習内容を理解し、知識を定着させる。 ・実験観察において、手順に従って取り組む技能を身に付ける。 ・主に小テストや定期考査によって評価する。	・日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生命現象について科学的に考える。 ・これまでに学習した内容から、科学的に探究する力を養う。 ・実験観察において、結果をもとに考察する。 ・自らの考えを、口頭発表や文章によって表現する。 ・主に考査、提出課題、発表などで評価する。	・授業に対する姿勢、学習意欲、生物への関心があるか。 ・ノートやプリントなど授業内容を適切にまとめているか。 ・実験観察のレポートに取り組めるか。 ・授業参加や提出課題などによって評価する。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	生物の特徴	生物と遺伝子 生物の多様性と共通性 エネルギーと代謝 光合成と呼吸	a:生物の共通性を理解し、細胞の構造、生命活動に必要なエネルギーについて理解する。顕微鏡を使うことができる。 b:生物の共通性を考察し、進化の道筋について考える。酵素の働きを考察する。 c:授業や実習に主体的に取り組んでいる。	筆記試験 授業課題 実習	筆記試験 授業課題 実習レポート 発表	授業課題 授業参加 実習レポート 宿題
	遺伝子とその働き	遺伝情報とDNA 遺伝情報の発現 遺伝情報の分配	a:DNA の構造と転写と翻訳について理解する。DNA を抽出する技能を身に付ける。 b:DNA の構造と複製方法について考察する。ゲノム医療や幹細胞などの医療応用について考える。 c:授業や実習に主体的に取り組んでいる。	筆記試験 授業課題 実習	筆記試験 授業課題 実習レポート 発表	授業課題 授業参加 実習レポート 宿題
2	ヒトの体の調節	体液と恒常性 自律神経による調節 ホルモンによる調節 血糖調節 生体防御と免疫 免疫のしくみ 免疫と病気	a:体内環境の恒常性について、自律神経・ホルモンによる調節を理解する。免疫と細胞の働きについて知る。 b:血糖調節や体温調節の仕組みを考察する。予防接種の仕組みについて考える。 c: 授業や実習に主体的に取り組んでいる。	筆記試験 授業課題 実習	筆記試験 授業課題 実習レポート 発表	授業課題 授業参加 実習レポート 宿題
3	生物の多様性と生態系	環境と生物 植生の遷移 バイオーム 生態系とそのバランス	a:植生の遷移、バイオームを理解する。生態系と生物の相互関係を知る。 b:生態系における生物の役割について考察する。人間活動と生態系の関わりについて考察する。 c: 授業や実習に主体的に取り組んでいる。	筆記試験 授業課題 実習	筆記試験 授業課題 実習レポート 発表	授業課題 授業参加 実習レポート 宿題

※令和４年度以降入学生用

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度